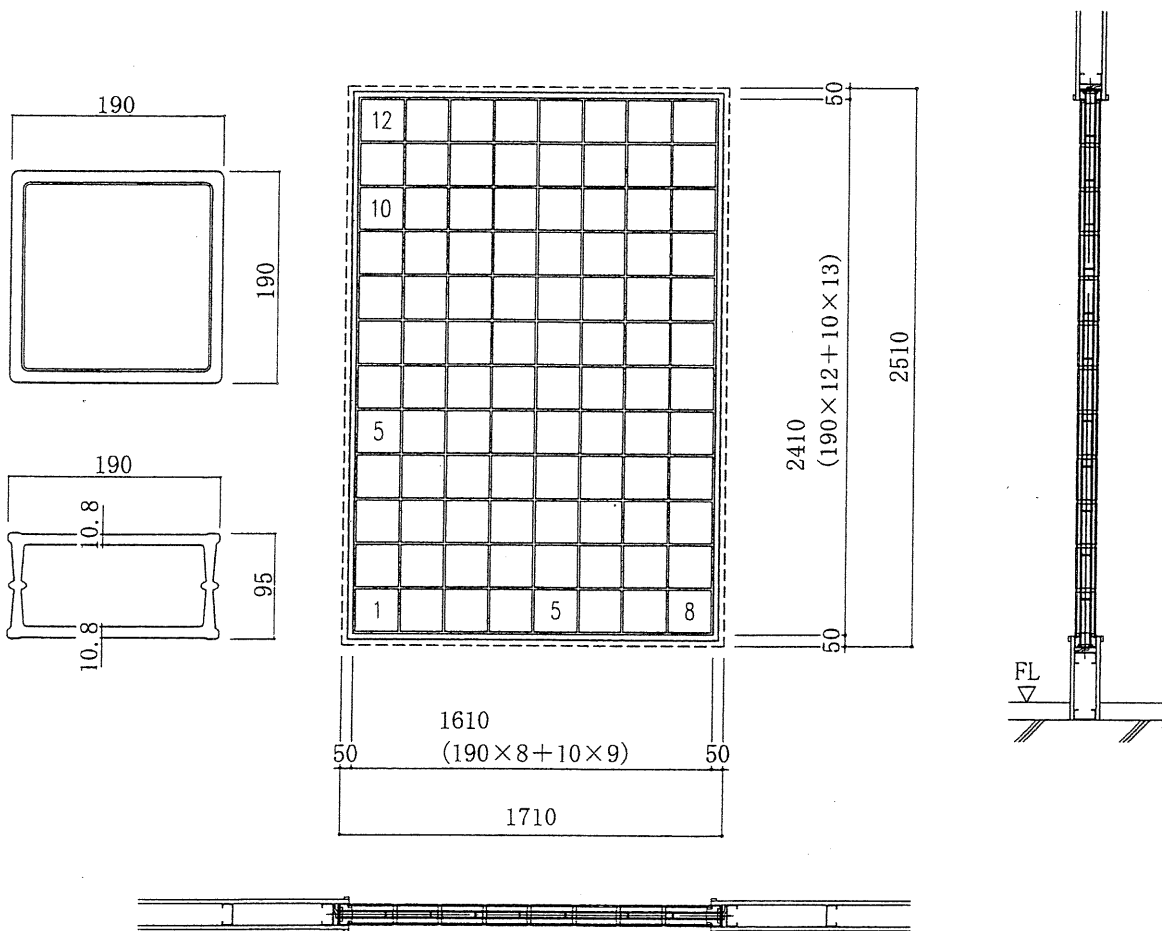


(別添)

認定番号	EA-9178	認定年月日：平成 14 年 5 月 31 日
品目名	ガラスブロック製はめ殺し窓	申請者名：日本電気硝子株式会社 滋賀県大津市晴嵐 2-7-1

1. 試験機関名 (財)日本建築総合試験所 受託番号 ⅢB-95-39

2. 構造説明図 (単位 mm)



3. 材料等説明

1) 主構成材料

部 材 名	材 料 名	寸 法	規 格	備 考
上 枠 下 枠 縦 枠	一般構造用軽量形鋼	100×50×1.8 (mm)	JIS G 3350	
	一般構造用圧延鋼材	100×50×5×7.5 (mm)	JIS G 3101	
ガラス	ガラスブロック	大きさ 190×190 mm以下 厚さ 95 mm以上	JIS A 5212	

2) 副構成材料

部 材 名	材 料 名	寸 法	規 格	備 考
積モルタル	セメント 砂	3 ~ 5 mmパス 比重 1.7 ~ 1.8	JIS R 5210	
力骨	ステンレス	径 5.5φ ±0.5 mm L=2100~3700 mm	SUS304	
アンカーピース	ステンレス	厚み 0.7+1.0 (mm) -0 53×70×11.5±1.5 (mm)	SUS304	
緩衝材	発泡天然ゴム	幅 長さ 厚み 75×1000×10 (mm)		
スベリ材	ブチルゴム	幅 20 mm×10m 巻		

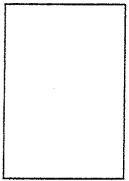
3) 最大寸法 (単位 mm)

最大幅寸法 W=1710

最大高さ寸法 H=2510

4) サイズ表 (単位 mm)

W (DW)	1710 (1610)
H (DH)	2510 (2410)



4. 標準仕様（施工仕様）

取り付け枠の形状及び開口部寸法は、設計図通りに作られていること。また、枠周囲にはガラスブロック施工後に変形を起こさないようモルタルが充填されていること。

1) 施工手順

- ① 設計図に示された目地幅寸法に従って開口部に目地割りをを行う。

目地幅は 10 mm を標準とするが、開口部寸法により 8～15 mm の範囲で割り付ける。

- ② 副構成材料の取り付け

周囲枠及びコンクリートとガラスブロックとの取り合い部に緩衝材、すべり材を取り付ける。また目地割りに合わせて縦力骨をアンカーピースを介して配置する。力骨は標準施工法においては 620 mm 間隔以下に配置し、周囲枠溝内アンカーピースに、差し込みしかり固定する。

- ③ 積みモルタルを作る

表-1 の比で練り箱にセメント、砂を入れ良く混ぜ合わせる。次に、水を少量ずつ加えながら練り上げる。水量が少ないとモルタルの強度が低下し、多すぎると施工性が悪くなるため、水量を調節しながら練ること。

表-1 積みモルタルの調合比（重量比 %）

セメント	砂	水
100	300～500	40～45

- ④ ガラスブロックの積み上げ

a. 目地割りに合わせて横系を張る。

b. 開口部下辺に積みモルタルを敷き、一段目のガラスブロックを高さ・出入り及び縦目地幅を正確に決めて並べる。

c. ガラスブロックが並べ終わった後に縦目地に積みモルタルを充填する。

モルタルは目地鏝で良く押さえて隙間なく充填する。力骨配置部分の目地は特に丁寧に詰める。また目地を押さえる時にガラスブロックが動くことがあるのでガラスブロックをしっかり押さえながらモルタルを充填する。

d. 二段目の目地割りに合わせて横系を張り変えて、下段ガラスブロックの上面に積みモルタルを敷く。一段目ガラスブロックの配置と同様に高さ・出入り及び縦目地の通りを注意しながら位置決めをする。位置決めをする時に下段のガラスブロックが動かないよう注意すること。

e. 横力骨の配置は高さ 620 mm 以下の間隔に、縦力骨の間を通して横目地の中央になるようにする。横力骨の上下には積みモルタルが被さるようにする。

f. 最上段のガラスブロックは一個ずつ周囲の目地にモルタルを充填しながら固定していく。

g. 積み上げ後、目地モルタル面の深さ（10～20 mm 前後）や充填の程度を確認し、不足している所はモルタルを補い、押さえの足りない所は鏝で良く押さえ目地面を平滑にしておく。